



この事業を始めたきっかけは、三重県立本高等学校の松永麻奈さん（平成23年三重県生徒リーダー）がJRCステディ・センターでH・R指導者だった福島県の石田先生と出会いが最初のつながりでした。その後、東日本大震災が起こり、「わたしたちに何ができるか？」と松永さんを中心にすぐ本高等学校JRC部は義援金活動や応援フラッグの作成等の行動を起こし、福島県へできることを行ってきました。その後も、トビックアルバムやメッセージカードの交換等で福島県磐城第一高等学校

との交流を深め、震災から2年後の平成25年、第1回福島県青少年赤十字交流事業として岡本茜さん、端無こずえさん、大和田楓さんが指導者2名の計5名で福島県を訪問しました。それから、3年の月日が流れ、平成28年に第2回目の福島県青少年赤十字交流事業を実施し、中尾開晴さん、上地真也さん、落合海史さん、指導者2名の計5名で訪問しました。福島県青少年赤十字交流事業は今まで3回実施し、私は3回とも引率させていただき、福島県の約8年間の変化を見てきました。

震災の被害を目の当たりに

第1回目は、震災から2年しか経過していなかったため、復興途中の福島県を見ました。瓦礫の残骸や津波で流されて何もない場所、仮設商店街へトレンで作った折り鶴を持って訪問等、復興へ向けて頑張っている人々の姿を見ました。また、大地震が起こった当時の様子からマスコミで報道のされていない情報等、さまざまな言葉も聞きました。現地の人から涙を流しながらその時の辛かった話を

復興への力強い歩み

聞き、参加者も自然と涙しながら有意義な時間を過ごしました。



第2回目は震災から5年が経過し、徐々に復興が進んでいる福島県を見ました。海岸付近へのイオンモールの建設や多くの場所への復興住宅建設など、記憶を残していくためのメモリアルな場所の建設等かなりの変化がありました。ただ、原子力発電所関係はなかなか進んでなく、相当の時間がかかることも教えていただきました。また、復興住宅付近の集会所に被災された方に集まっていたとき、生の声を聞いたときは自然と涙があふれました。相当苦しい体験をされ、思い出したくない出来事にもかかわらず、1つ1つそ

これから私たちにできること

3回とも現地での福島県JRC部との交流や被災地への視察はとて有意義な時間を過ごすことができました。三重県に戻った各メンバーは、自分たちの目を見たことをさまざまな場所で発表や報告を行いました。防災・減災に対する意識を周りにも広め、今後三重県で起こると言われている南海トラフ地震に備えていければと思います。各回の写真やビデオ、先輩からの声を聞き、さらに自分たちのJRC活動につなげていきたいと考えています。

現在在インターネット等で情報を得ることは出来ます。しかし、現地を訪問し、実際に自分の目で見て納得することによって得られることも多くあります。全国で活動している青少年赤十字の仲間と一緒に、JRC活動の魅力を発信しながら、お互いのJRC活動の活性化をはかっていければと思います。

「気づき・考え・実行する」精神を忘れず、子どもたちにはさまざまな経験をさせていきたいと思っています。JRC実践目標「健康安全・奉仕」の心の大切さを感じながら、これからもうるんな「仕掛け」をしていきたいです。このような機会を与えていただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和元年度 三重県青少年赤十字 指導者協議会 役員一覧



役職名	名前	所属所名
会長	北岡明直	津市立西橋内中学校
副会長	加藤眞司	伊勢市立明倫小学校
副会長	数 晃明	松阪市立三重中学校
副会長	大藤久美子	三重県立白子高等学校
理事	森本敏子	明和ゆたか園
理事	正田まゆみ	津市立村主幼稚園
理事	川崎奈保美	熊野市立本小学校
理事	三輪辰男	津市立橋北中学校
理事	小川晃範	鈴鹿市立長太小学校
理事	伊達智博	松阪市立山室小学校
理事	執行ひろみ	熊野市立神上小学校
理事	後藤勝弘	津市立南が丘中学校
理事	赤沼寛子	津市立南郷中学校
理事	中山智	三重県立白子高等学校
理事	田中 彌	三重県立白子高等学校
顧問	横井 裕	三重県立白子高等学校
顧問	松田克己	三重県立白子高等学校
顧問	諸岡 伸	三重県立白子高等学校
顧問	大塚千尋	三重県立白子高等学校
顧問	林 幸喜	三重県立白子高等学校
顧問	西口 修身	三重県立白子高等学校
顧問	小林弘明	三重県立白子高等学校
顧問	倉田幸則	津市教育委員会教育長

令和元年度 三重県青少年赤十字 指導者協議会 役員一覧



「子ども新聞プロジェクト2019」が実施されました。今年の子ども記者は東海3県に住む小学生11人。三重県からは、津市立一身田小学校の立藤すみれさんと津市立栗真小学校の土保篤樹さんが参加しました。

子ども新聞プロジェクトは、東日本大震災の後、日本赤十字社愛知県支部・岐阜県支部・三重県支部が、朝日新聞社と共に毎年実施している事業です。防災・減災をテーマに、青少年赤十字に加盟する小学校の児童が現地を訪問して、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」を実践する活動です。

本年度は、昨年9月6日に起きた「北海道胆振東部地震」で大きな被害を受けた厚真町、安平町、むかわ町を中心に取材を行いました。

子ども記者となった皆さんは、現地取材の前に事前研修会を行って取材の準備をしました。そして、7月13日から2泊3日で現地取材を行い、現地取材中はワークショップを行ってみんなで取材を振り返り、7月20日に最終の編集会議を行って記事を作成しました。

厚真中央小学校では、僕たちも同じ小学生ということもあり、地震が起きたら僕たちの普段の学校生活がどのようになるのか実感しました。たとえば理科室のピーカーなどの実験器具が割れてしまったり、プールが使えなくなったりしました。この夏も水泳の授業はとなりの小学校へバスで行き、たった2回しかできなかったそうです。地震から

第1日目 北海道大学で液状化実験（札幌市清田区の住宅街での液状化現象について学ぶ）
渡部要一氏（北海道大学大学院工学研究院環境フィールド工学部門教授）
ワークショップ 取材の振り返り

第2日目 厚真町吉野地区（大規模なけがれが起きた現場）
原 祐二氏（厚真観光協会事務局）
厚真町立厚真中央小学校（避難所となった小学校）
池田健人氏（厚真中央小学校校長）
山口農園（斜面崩壊により被害を受けた農園）
山口善紀氏（ハスカップファーム山口農園代表）
金川牧場（停電や断水で搾乳から出荷に大きな影響があった牧場）
金川幹夫氏（金川牧場代表取締役）
法城寺（鐘つき堂が全壊するなど大きな被害を受けた寺。住職は東日本大震災でのボランティア活動の経験を活かして救援活動・復旧活動に取り組んだ。）
樹田那由他氏（法城寺住職）
ワークショップ 取材の振り返り

第3日目 ワークショップ 取材の振り返り

北海道の地震から学んだこと

津市立一身田小学校（指導者） 稲垣 潤也

「子ども新聞プロジェクト2019」に参加しました。今年は北海道の取材でした。北海道は2018年に最大震度7の大地震が起こり、北海道各地で大きな被害がありました。子ども達と共に被害のあった場所を取材してまわりました。この三日間で被災した直後の様子や、まだ復興が進んでいない様子などを見たり聞いたりすることができました。

今回の活動に参加することで、テレビの報道ではわからなかったことを知ることや、見ることができました。今では、この地震に関する報道はされていないと思います。しかし、実際に目にしたものは、まだまだ復興が進んでいない様子でした。ひび割れたままの道路や崩れたままの建物、土砂崩れによって流された木々など、それから地震の被害がどれだけ大きいものか感じ取ることができました。今ではこういった現状が伝えられることは少なく、実際にその場所に行かないとわからないのだと感じました。また、今回の活動を通して、これまでに起こった大地震を忘れずに、そこから学んでいかなければならないと考えました。そして、子どもたちに地震の怖さを伝えるべきと考えました。子どもたちは心のどこかで、「地震は起こらないだろう」「自分は大丈夫だろう」と考えている様子があります。そんな子ども達に対して、日々の授業や避難訓練などで地震に対する意識を高めさせる必要があると思いました。そのためには、今回の活動で知ったことを子どもたちに伝えていこうと思いました。地震が起きたときには津波、土砂崩れ、液状化など、地震以外の災害が起こると子どもたちに教え、それらの対策を一つ一つ考えさせたいと思いました。

今回、北海道の被災地を取材することで、地震による被害がどれだけのものかわかりました。地震に対して自分ではどれだけ準備や対策ができていくか、振り返ることができました。また、これから起こりうる地震に対し、自分の命を守るための行動を子どもたちと共に考え、身に付けさせたいと思いました。

北海道大学で実際に液状化のことも

子ども新聞プロジェクト2019



厚真中央小学校を訪問して

津市立栗真小学校 6年 土保 篤樹

僕は、子ども新聞プロジェクトに参加して、地震が起きたら僕たちの普段の学校生活がどのようになるのか実感しました。たとえば理科室のピーカーなどの実験器具が割れてしまったり、プールが使えなくなったりしました。この夏も水泳の授業はとなりの小学校へバスで行き、たった2回しかできなかったそうです。地震から

ほぼ1年たった今でもこのように子ども達の生活に影響があるのを知って驚きました。また、震災後は避難訓練が増えたのだからと思っていた僕たちの予想に反し、一度も避難訓練をしていなかったのは、取材をして質問をしなればわからないことでした。学校の壊れてしまった部分を見て地震を思い出してしまい、授業が受けられない子もいたため、心のケアを優先しているからでした。

防災の取組も印象的でした。普段から児童一人ひとりの椅子に防災頭巾をかけておくことや、理科室の戸棚が開かないようにひもをかけておくことなど、僕の小学校でもすぐできそうなことだと思うので、みんなに伝えようと思いました。

子ども新聞プロジェクトに参加して

津市立一身田小学校 6年 立藤 すみれ

私は7月13日から15日まで、北海道に行く機会をもらいました。平成30年に起こった地震の被災地を取材するためです。

私たちは5つの被災地を取材しました。厚真町の崖崩れ現場、厚真中央小学校、ハスカップファーム山口農園、金川牧場、法城寺です。実際に現場に行ってみたり話を聞いたりすることでテレビで見るより考えさせられました。崩れた山の斜面を実際に見て、土砂が沢山崩れ落ちていて今まで見たことのない山でした。斜面がむきだしになっていてこわくなりました。厚真中央小学校では物が落ちない工夫がされていました。私たちは避難訓練をしますが、この小学校ではしていないと聞いて心の傷が大きいんだなと思いました。牧場や農園では牛などにもストレスがかかったり当たり前のようにあった電気がなくなることについての仕事にも影響があったり、畑がめちゃくちゃになったらまた一からやり直しになり気持ち大変だと思いました。

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

北海道大学で実際に液状化のことも

令和元年度の加盟校園

本年度の加盟登録した学校園は395校・園です。

青少年赤十字では、「健康安全」「奉仕」「国際理解」「親善」を実践目標に、「気づき」「考え」「実行する」を態度目標として活動しています。各学校園の皆さんが学校や地域の状況に応じた活動を積極的に進めていたことを期待しています。

令和元年度の加盟校園

本年度の加盟登録した学校園は395校・園です。

青少年赤十字では、「健康安全」「奉仕」「国際理解」「親善」を実践目標に、「気づき」「考え」「実行する」を態度目標として活動しています。各学校園の皆さんが学校や地域の状況に応じた活動を積極的に進めていたことを期待しています。

令和元年度の加盟校園

本年度の加盟登録した学校園は395校・園です。

青少年赤十字では、「健康安全」「奉仕」「国際理解」「親善」を実践目標に、「気づき」「考え」「実行する」を態度目標として活動しています。各学校園の皆さんが学校や地域の状況に応じた活動を積極的に進めていたことを期待しています。

令和元年度の加盟校園

本年度の加盟登録した学校園は395校・園です。

青少年赤十字では、「健康安全」「奉仕」「国際理解」「親善」を実践目標に、「気づき」「考え」「実行する」を態度目標として活動しています。各学校園の皆さんが学校や地域の状況に応じた活動を積極的に進めていたことを期待しています。

「赤十字社展—赤十字 人道の軌跡—」を開催

日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業の一つとして「赤十字社展」を開催します。赤十字の誕生から現在までの歴史的な書物や日本赤十字社が所蔵する絵画等を展示します。多くの皆様に赤十字の「人道」への想いに触れたいと願っています。

期間 令和元年10月19日(土)～11月4日(月) 9:00～17:00
会場 三重県総合博物館MieMu 2階[交流展示室] 津市一身田上津部田3060

加盟数

保育園・幼稚園	69
小学校	229
中学校	86
義務教育学校	1
高等学校	9
特別支援学校	1
合計	395

リーダーシップ・トレーニング・センター レポート



本年度も、青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)を、三重県立鈴鹿青少年センターにて開催しました。赤十字・青少年赤十字に関する知識を学習しながら、自主・自律の精神を身につけ、それぞれにリーダーシップの取り方を学んだ2泊3日間。さまざまなプログラム・学習を通じ、輝く皆さんの姿がたくさん見られました。

小学校 7/31(水)～8/2(金)



中学校 8/4(日)～8/6(火)



無言の世界

話してはいけないというルールを守り、仲間と意思疎通を計ったり、協力して問題をクリアしました。



救急法

三角巾を使った応急処置を実践



トレーニングセンターで得た知識・技術を、H・Rごとに実践！みんなで協力して、学んだことを活かした行動ができました。

暗黒の世界

道具を使って倉庫から避難所まで物を運ぼう！



防災

クリップや輪ゴムなどを、すべて道具を使って所定の位置まで落とさないように運びます。作戦を練りながら、制限時間内に運び出せるようがんばりました。

朝のつどいでは、レクV・Sを中心に、レクリエーションや体操、連絡等を行い、一日を元気にスタートしました。



小学生の防災すごろくでは、ゲーム感覚で防災の知識を学ぶことができました。みんな夢中！

救急法



意識を失って倒れている人と、ケガを訴えている人を発見。チームで協力して声を掛け合い、応急処置を行いました。

心臓マッサージやAEDを使っている救助

音楽を聴きながら

矢印をたよりに関所を探したよ！

仲間と楽しい食事の時間よ

仲間と楽しい食事の時間よ

仲間と楽しい食事の時間よ

(注) H・Rとは、ホームルームのことです。V・Sとは、ボランティア・サービスのことで、今の生活をよりよくするために、だれか命じられることなく、自ら進んで周囲の人のために自分をいかすことです。



アイマスクをした仲間を上手に誘導できるかな？

暗黒ゾーン

アイマスクを着用し前が見えない状態の仲間を安全に誘導できるか挑戦。チームごとに個性ある誘導方法が見られました。

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう

何かあるかよく観察してみよう



高等学校 7/31(水)～8/2(金)

V・S ボランティア・サービス

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

アルバム制作中...

ワークショップ

高校生は、これまでの研修をふまえ、各自がこれからどのような行動をしていくのか、5W1Hを活用して具体的に考えるワークショップを行いました。

掲示板

号令、チャイムなどの「合図のない生活」のため、連絡、よびかけ、案内などの周知事項は掲示板にて行いました。

閉会式

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

よくがんばりました！

リーダーシップ・トレーニング・センターを終えて

トレセンをふりかえって

熊野市立神上小学校 指導者 執行 ひろみ

私がトレセンに関わり始めたのが平成15年、今から16年前です。その年のトレセンの参加者は70名、紀南からは37名、スタッフは21名と記録しています。会場は熊野少年自然の家でした。これまでのトレセン会場は熊野少年自然の家で4回、四日市少年自然の家で1回、津市青少年野外活動センターで4回、三

重県立鈴鹿青少年センターで7回。やはり環境が整っている鈴鹿青少年センターがトレセン会場として一番ふさわしいと思います。「3日間、すごく楽しかった。」「来年もトレセンに参加したい。」「新しい友だちができてうれしい。」「こんなに自分が変わることができるなんてびっくりした。」「等と素晴らしい感想が寄せられ、子ども達は参加して満足しています。私も子ども達同様に参加する度に多くの先生方や日赤職員に出会い、学校間の情報交換ができたり、日頃の悩みをお互い出し合ったり、

泊を共にすると心の絆が一段と深まること間違いなしだと思っています。トレセンでは、①命令しない、されない生活 ②五分前行動 ③気づき、考え、実行する ④掲示板を見て行動することが重視されます。研修内容は長年ずっと同じですが、リーダー養成にふさわしく、何とてっても一番盛り上がるのが赤十字をテーマにしたスタンツです。最近、ジッコイ・ワールドによるスタンツを披露し、好評を得ています。恥を捨てての先生方の演技は圧巻で子ども達

から大きな拍手をもらっています。トレセンで学んだことを本当に自分のものにするためには、色々なことに興味を持ち、幅広く知識を得ることが大切だと思います。最後に働き方改革が強く叫ばれている現在、スタッフは集まるのだろうか、若い先生方も参加してもらいたいトレセンの醍醐味を味わって頂きたいという思いがあります。私は来年3月現場を退職します。長い間、トレセンに関わらせて頂きありがとうございます。楽しい思い出がいっぱいできました。

初めてのトレセン

津市立倭小学校 6年 三田 真愛

私はトレセンに行くのは初めてでした。でも、みんな優しいし、面白いし、一緒にいて安心できました。トレセン一日目はきんちょうして、H・R(ホームルーム)では全然話せませんでした。でも夜みんなとごはんを食べるとき、いっぱい話せました。最近面白いことがあったことなど話そうなずしてくれたり、「面

白!!」と笑ってくれました。とてもうれしい一日になりました。二日目はH・Rでやったげき(スタンツ)がとても楽しかったです。げきでまちがってもみんな笑ってくれて、先生方が言ったように「失敗してもいいんだ!」と思いました。でもその失敗を土台にしてこれからどんながんばっていくかと思っています。今は三日目です。一日目は人とも話せなかったけど、今はとてなり友達がいっぱい。トレセンで仲良くなった子です。私はトレセンでたくさん成長しました。これからこのこと

を活かしてもっと成長したいです。



トレセンに参加して

津市立橋北中学校 1年 黒坂 美奈子

私は、今回初めて青少年赤十字リーダーシップ・トレー

ニング・センターに参加しました。最初は、「トレセン」とは何なのか? どのようなことを中心にするのか? 緊張しながらも、少しの楽しみがありました。始めてみると、普段の生活とは違うことがありました。それは、学校では「今から〇〇をするので、〇〇と〇〇を準備してください。」等の先生からの指示がありますが、トレセンでは、その指示が先生からは言われませんでした。全て自分たちで掲示板を見て、「気づき、考え、実行する」ことが求められていました。V・Sという仕事を仲間と共

にこなすことや、H・Rで話し合いをすることなど、あたりまえだと感じていたものが、とても大切なものだと感じられました。どんなに小さな仕事でも、みんなの協力が必要であることも改めて感じることもできました。「リーダー」というのは、誰か一人が先頭になって行動をする人だと思っていたけど、みんなが、一人ひとりが責任を持ってこなす、その人たちが一人ひとりがリーダーなんだと感じました。この3日間で学んだことを私の人生に活かして、みんなの役に立てる自立した人間になれるように頑張ります。

トレセンで学んだこと

三重県立白子高等学校 3年 鈴山 友暉

私はこの3日間で大変貴重な経験をしました。まず1日目では赤十字社がどういった経緯でつくられたのかという、その歴史や創始者である「アンリー・デュナン」について学び、理解を深めることができました。それにより、日赤の活動の根底にあるものが何かを意識し、今後の活動に臨んでいこうと思いまし

た。2日目の防災や救急法についての研修は災害時に実際に役に立つ技術を学ぶとともに、近い将来起こると言われている大災害に対してどういった準備をしなければならぬのかを仲間と考えたことで、災害に対する意識が変わりました。また、2日目では他にも「国際理解・親善」の研修を行い、ベトナムの文化について学びました。これにより私は、国や文化が違えば考え方も違うということを理解し、ものごとを色々な角度で見ることによって互いの気持ちを読み取り、世界中の人々と交流して仲を深めてい

きたいと思いました。3日目のフィールドワークでは、人では到底知識力が及ばないAIにはないような創造力や仲間との協力によって、多くの課題をクリアしていくことができました。この3日間、責任感やコミュニケーション力などの多くの能力を向上させることができました。この経験をこれからの活動にしっかりと活用していきたいと思っています。

